

国際大会調査報告書

地域資源を最大限に活用：非オリンピック種目の国際総合競技大会

The World Games 2022: Birmingham, USA

作成：独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部 国際戦略課

協力：日本ワールドゲームズ協会

本レポートは、日本スポーツ振興センター(JSC)が、7月7日～17日に行われた「The World Games 2022」の視察及びワールドゲームズ関係者などからのヒヤリング情報に基づき作成したものである。

キーワード：

- ・コスト削減、大会簡素化
- ・非オリンピックスポーツ
- ・地域活性・還元
- ・未来のオリンピックスポーツ

World Games とは

オリンピックに採用されていない競技・種目の国際大会

ワールドゲームズは、オリンピックに採用されていない競技・種目でトップアスリートが競い合う国際総合競技大会である。国際ワールドゲームズ協会(IWGA)の主催のもと、国際オリンピック委員会(IOC)の後援により、夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の翌年に4年に一度開催される。

実施される競技・種目については

- ・オリンピック競技大会に採用されていない競技・種目、
- ・開催地の既存競技施設で実施可能、
- ・世界的に普及しており世界選手権大会が定期的に行われていることが基本条件とされている。

また、今までワールドゲームズ競技・種目からの多くが新規オリンピック競技として採用されており、東京2020の追加種目(野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン)は全てIWGA加盟競技であることから、IOCも非常に重きを置いている大会だと言える。2022年バーミングハム大会においても、IOCバハ会長が視察されるなど大会に注目される様子が伺えた。また、2017年大会には、当時のスポーツ庁鈴木前長官も視察された。^{1,2)}

地域資源や特性を活かす、コストを抑えた柔軟な大会運営

4年に一度ある総合競技大会という事で、オリンピック競技大会に似ている大会ではあるが、ワールドゲームズの大きな違いは地域資源を最も有効活用することにある。IWGAは1981年に行われた第一回目のワールドゲームズ開催から、開催都市の地域資源や地域

特性を活かし、持続可能な大会にする事を大事にしてきた。選手村は新たに建設せず選手は既存の宿泊施設に宿泊する事や、既存の施設で開催できる競技種目のみで開催する事から、オリンピックとは異なり必要経費を最小限に抑える効果を発揮してきた。既存の施設のみで開催するという決まりがあるため、ワールドゲームズは開催都市によって実施競技が異なっていることも、特徴的である。IWGAの公式競技であっても、ワールドゲームズに毎回出場できるとは限らない。²⁾

開催都市とのエンゲージメント

開催都市の文化紹介や選手同士の交流を行う場を提供することも開催の必須条件となっている。また、競技大会とは別にコンサートや展示会等の文化的イベント、一般市民の参加を求めるスポーツイベント、さらには大会参加者が一堂に集まるパーティの開催が大会実施要件となっていることもワールドゲームズのユニークな特色である。2001年に秋田県で開催された第6回大会においても、開会式で地域の伝統芸能を披露、大会前後も地域の住民と参加チームが文化交流を行うなど活発な交流がなされ、このことからIWGAが古くから競技以外で開催都市に与える効果も重視していることが分かる。³⁾

このような取り組みにより、参加選手の意向のみではなく、開催都市や住民の意向も柔軟に反映し、そちらへの最大限の効果を発揮しながら、なるべくコストを抑える取り組みを行うことで、今後の国際大会運営のあり方について大変有益な先行事例となっている。

今回のワールドゲームズは2025年に中国・成都で予定されている。

World Games 2022 in Birmingham, Alabama USA

開催概要^{5,6,7,8)}

主催:International World Games Association (IWGA)

会場:Birmingham, Alabama USA

日時:2022年7月7日～7月17日

大会 HP:<https://twg2022.com/>

観客数:375,000人

ボランティア数:3,000人

出場選手数:99の国・地域から3,459人のアスリート

参加競技:公式30競技、公開5競技

公式:

エアースポーツ	コーフボール
アーチェリー(フィールド)	ラクロス(女子)
ビリヤード	ライフセービング
ブルースポーツ	ムエタイ
ボウリング	オリエンテーリング
カヌー(ポロ・マラソン)	パワーリフティング
ダンススポーツ	ラケットボール
フィストボール	ローラースポーツ(アーティステック、インラインホッケー、スピード)
フロアボール	ソフトボール
フライングディスク	スポーツクライミング
体操(スポーツアクロ体操、エアロビック、新体操、トランポリン、タンプリング)	スカッシュ
ハンドボール(ビーチ)	相撲
柔術	綱引き
空手	水中スポーツ(フィンスイミング)
キックボクシング	水上スキー・ウエイクボード

公開:

フラッグフットボール	車いすラグビー
ラクロス(男子)	武術
トライアスロン(デュアスロン)	

メダル数:

223個のメダル種目を実施

72の国・地域(参加総数99)からの選手がメダルを獲得

初のメダル獲得:ブルネイ、パナマ、インド、チュニジア、ヴァージン諸島(米国)

日本は21競技(公式17、公開4)に参加

メダル数は金10、銀11、銅12計33個

メダル獲得数は世界6位

施設について(地域資源活用)

ワールドゲームズの特徴の一つである、地域資源や既存施設の活用はバーミングハム大会でも活かされていた。ワールドゲームズの意向として、キーとなる地域・施設の活用の仕方に沿って、一部を紹介する。

1. 都市基盤や施設の活用:1882年に建造され1971年まで鉄筋高炉として稼働していたバーミングハムの固定歴史建造物である、「Sloss Furnaces National History Landmark」を使い仮設ステージでブレイキンやパルクールを行った。⁹⁾
2. 一般的にスポーツに使われない場所の活用:普段一般市民に使われている、池や木が多くある公園「Avondale Park」では、アーチェリー(フィールド)が行われた。様々な樹木の間を的を立て、地形を活かした大会会場となっていた。
3. 既存(または仮設)のスポーツ施設を活用:高校のフィールド「John Carroll High School」でのフライングディスクや、コンサートホール「BJCC Concert Hall」でのパワーリフティング等様々な形で既存の施設は活用された。また、1927年に設立された歴史のあるアメリカンフットボールのスタジアム「Legion Field」にて、フラッグフットボールのフィールドが2面で実施され、地元のファン達も多いに盛り上がっていた。
4. 室内・屋外競技の比率は50%:屋外の競技のみならず、屋内の施設(コンサートホールやスタジアム)も多く使用され、中にはホテルのボールルームまでも活用しビリヤードを行う等、様々な工夫を施し行われていた。

また、更なるワールドゲームズの特徴として、バーミングハムの地域への最大の効果を図るため、施設は徒歩圏内のものも多く、遠くでも車で20~30分圏内の施設が使われていた。





ブレイキンの会場、Sloss Furnaces (2枚)



フラッグフットボールの会場、Legion Field



アーチェリー(フィールド)の会場、Avondale Park (2枚)



フライングディスクの会場、John Carrol High School

大会運営の簡素化

ワールドゲームズは他の総合国際競技大会と比較して、必要経費を抑えて実施することが可能である。バーミングハム大会でも既存の施設のみでの競技の実施の他に、選手の宿泊場所にバーミングハム市内にある大学「University of Alabama Birmingham」の寮を活用し、アスリートナイト(選手・スタッフの交流会)に市内の農場を使用、そして来場者のためのイベントスペースもメイン会場近くの屋外広場を活用など、コストを抑える工夫が至る所に施されていた。



アスリートナイトの会場(2枚)

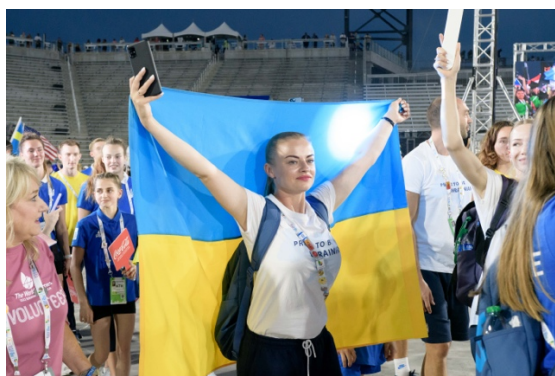
収益効果

まだ最終的な数字は発表されていないが、バーミングハム大会での経済効果の収益は256,000,000米ドル(1米ドル=135円で計算すると、346億6千万円)を予想されている。¹⁰⁾

ウクライナ支援

現在の社会情勢を踏まえ、ウクライナの支援を様々な団体が行っているが、ワールドゲームズでは全ての競技チケットと物品販売の1米ドルをウクライナのスポーツコミュニティの支援の為にIOCのオリンピック・ソリダリティ基金を通じて寄付すると発表していた。こちらは大々的にも会場やウェブサイトで提示されていた。

大会が終わり、計54,000米ドル(1米ドル=135円で計算すると、729万円)がウクライナのアスリートとスポーツの為に寄付された。¹¹⁾



©D Jerome Smedley/Smedley Media LLC

閉会式でのウクライナ選手



©IWGA 大会後の寄付金贈呈の様子

スポーツの多様性

ワールドゲームズを視察する中で、運営だけではなく、競技特性上でもオリンピック・パラリンピックにはない特色を感じ取れた。以下は、様々な観点からスポーツの多様性を感じた一部のものである。

【社会貢献性:ライフセービング】

楽しみや体力向上、勝敗等の目的ばかりではなく、水辺での救助活動をより良く行う事で命を守るという、社会的貢献が目的とされるスポーツである。実際に水辺での救助に使うレスキューチューブを使用し、マネキンを溺れている人に見立て抱えながら泳ぎを競うなど、救助技術と体力の向上を競技として組み合わせ、スピードと正確性が問われている。種目としてはプールと海の両方が存在するが、バーミングハムでは海がない為プール種目のみが行われた。^{12,13)}



©DUSTINMASSEYSTUDIOS ライフセービングでのマネキンレース

【男女混合スポーツ:コーフボール・フライングディスク】

近年、オリンピックでも卓球のミックスダブルス等が追加される中、スポーツとして男女の壁を超えたチームスポーツも今後注目されると思われる。

ワールドゲームズの参加競技の中では、バスケットボールやネットボールに似たコーフボールという種目がある。室内のコートにて、オフense・ディフェンスにチームが分かれバスケットへシュートを打ち得点を競い合う競技だが、チームは男女4人ずつの計8人で形成される。パス主体の試合運びで、接触プレーは禁止され、異性をマークする事もペナルティになるが、それ以外は全てルールは平等で競い合う。^{14,15)}

また、プラスチック製のディスクをパスで運びエンドゾーンでキャッチするフライングディスクも、男女混合のチームスポーツである。この競技もパスする事で試合が動き、ディスクを持って走れず、接触プレーも禁止である。それに加えて、フライングディスクは自己審判制であり、フィールドに審判はおらず、お互いのチーム同士でペナルティ等を判断する。¹⁶⁾

IWGAとJWGA、連携協定を結ぶ

バーミングハム大会中、現地時間7月12日に、IWGAのホセ・ペルレナ・ロペス会長（IOC委員：カヌー）と日本ワールドゲームズ協会（JWGA）の渡邊一利副会長（日本選手団長/笹川スポーツ財団理事長）との間で連携協定締結（MOU）の調印が行われた。JWGAとしては初めてのMOUとなり、今後、ワールドゲームズの普及に向けたプロモーションや、ワールドゲームズを通じた世界平和の推進を双方連携のうえ取り組む内容となっている。JWGAの役割は今後益々重要なものとなり、日本国内の競技団体をはじめ、関係諸機関（政府、スポーツ振興組織等）とより関係を密にし、ワールドゲームズを推進して行く予定。世界の他のどの国・地域を見てもJWGAのようなワールドゲームズの普及、推進を専門的に行う機関はなく、このような観点からもJWGAは世界に先駆けてMOUを締結し、IWGAと協働していくことに期待を寄せている。^{18,19)}

参照

1. <https://www.theworldgames.org/contents/The-IWGA-15/The-IWGA-1>
2. <https://www.theworldgames.org/contents/The-IWGA-15/IWGA-and-the-IOC-2096>
3. https://www.jwga.jp/competitions/akita/download/06th_report_02.pdf
4. <https://www.theworldgames.org/contents/The-IWGA-15/Sustainability-2100>
5. <https://www.theworldgames.org/contents/The-IWGA-15/Members-1043>
6. <https://twg2022.com/sports/>
7. <https://www.jwga.jp/competitions/birmingham/>
8. <https://www.theworldgames.org/news/The-World-Games-2022-32/Thank-you-Birmingham-2385>
9. <https://www.slossfurnaces.com/>
10. <https://twg2022.com/birmingham/>
11. <https://www.theworldgames.org/news/The-World-Games-2022-32/TWG-2022-Contributes-to-Help-Ukrainian-Athletes-and-Sports-2379>
12. <https://ls.jla-lifesaving.or.jp/lifesaving-sports/>
13. <https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/rules/>
14. <https://www.theworldgames.org/sports/Korfball-17>
15. <https://korfball.sport/>
16. <https://wdf.sport/disciplines/ultimate/>



© Frederick Hardy II 2022
/Dustin Massey Studios
コーフボール



©THE WORLD GAMES_ フライニングディスク

【共生社会:相撲】

日本で一般的に知られている大相撲とは異なり、レスリングのようにウェイトクラスが分けられ、男女ともに競技の場がある国際相撲は、国際的人気を誇るスポーツである。他にも力士、行司の服装等大相撲と異なる点もあるが、競技のルールとしては同じ。体重別・男女別がある事により、様々な体格の選手が相撲を楽しめるようになっている。¹⁷⁾



©(2022) Marvin Gentry 女子相撲

17. <https://www.theworldgames.org/sports/Sumo-23>
18. <https://www.theworldgames.org/news/The-World-Games-2022-32/MoUs-signed-with-four-National-Sports-Entities-2374>
19. <https://www.jwga.jp/info/220712.html>